

# 2013年3月期決算説明会

---

2013年5月16日

AOCホールディングス株式会社



AOC Holdings, Inc. (TSE:5017)  
[www.aochd.co.jp](http://www.aochd.co.jp)





# 2013年3月期 連結決算

---

# 原油価格および為替レート推移

## ドバイ原油価格

ドル／バレル



## 為替レート (TTM)

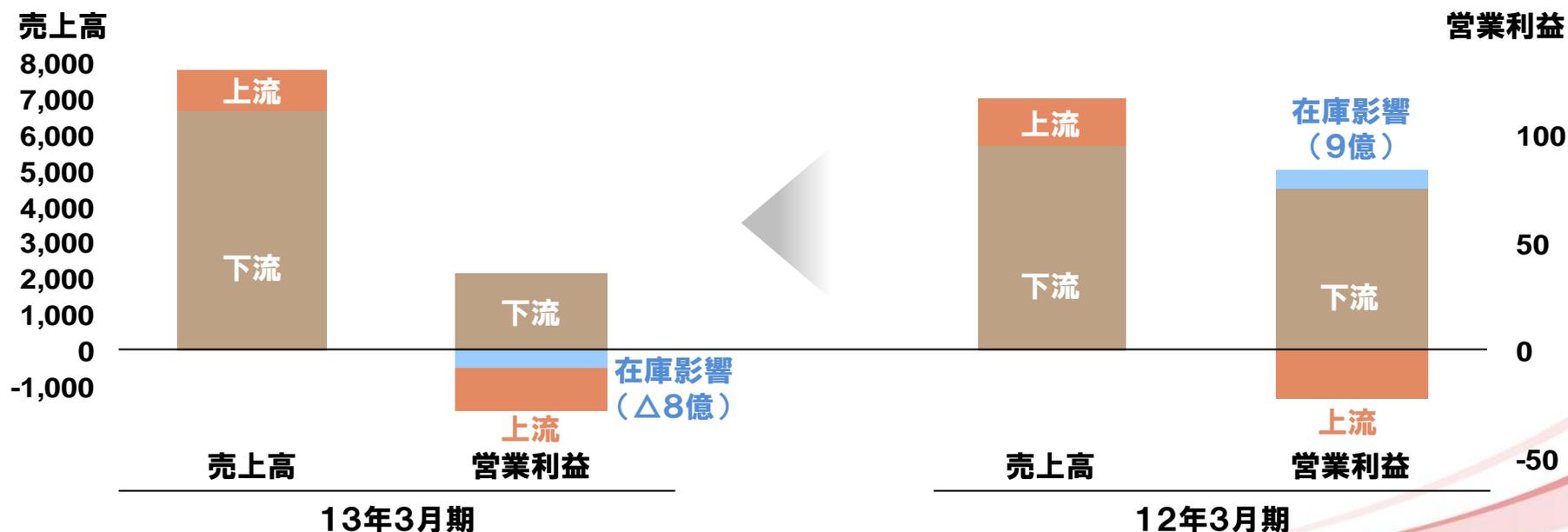
円／ドル



# 13年3月期 連結決算の概要

(単位:億円)

	13年3月期 \$107.1/Bbl ¥82.9/\$			12年3月期 \$110.1/Bbl ¥79.1/\$			増減額 △\$3.0/Bbl ¥3.8/\$			
	上流	下流	計	上流	下流	計	上流	下流	計	%
売上高	1,130	6,670	7,800	1,293	5,723	7,016	△163	947	783	11%
営業利益	△20	36	15	△22	75	52	1	△39	△37	△70%
除在庫影響		44	23		65	43		△21	△19	△44%
経常利益	30	2	32	△29	42	13	59	△39	19	151%
当期純利益	△129	△1	△130	△9	43	33	△119	△44	△163	—



# 原油販売量／販売価格

	販売量 (千バレル/日)			販売価格 (\$/バレル)	
	13年3月期	12年3月期	増減率(%)	13年3月期	12年3月期
クウェイトとの 売買契約による購入原油 (カフジ原油)	35.4	40.7	△13%	104.73	109.20
権益原油 (エコフィスク原油)※	0.1	0.2	△50%	112.31	112.98
合計	35.5	40.9	△13%	—	—

※1-12月

# 石油製品販売量

(単位:千KL)

	13年3月期	12年3月期	増減率(%)
ガソリン	1,951	1,808	7.9%
ナフサ	287	325	△11.7%
ジェット燃料	688	901	△23.6%
灯油	625	471	32.7%
軽油	1,371	1,390	△1.4%
A重油	95	56	69.6%
C重油	1,396	1,172	19.1%
(内電力向け)	(1,317)	(1,066)	(23.5%)
ベンゼン	215	168	28.0%
キシレン	322	306	5.2%
プロパン・プロピレン	192	143	34.3%
ピッチ	371	357	3.9%
その他	612	344	77.9%
小計	8,131	7,447	9.2%
ジョイント・バーター	540	354	52.5%
合計	8,671	7,801	11.2%
原油処理量	8,256	7,609	8.5%

# セグメント別売上高／利益

(単位:億円)

内部取引 消去後	13年3月期		12年3月期		増減	
	石油・ガス 開発／販売	石油 精製／販売	石油・ガス 開発／販売	石油 精製／販売	石油・ガス 開発／販売	石油 精製／販売
売上高	1,130	6,670	1,293	5,723	△163	947
セグメント利益	30	2	△29	42	59	△39

		増加要因	減少要因
売上高	石油・ガス 開発／販売		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 販売価格の下落 <math>\Delta 4\%</math></li> <li>● 販売数量の減少 <math>\Delta 13\%</math></li> </ul>
	石油 精製／販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 販売単価の上昇 <math>+3\%</math></li> <li>● 販売数量の増加 <math>+11\%</math></li> </ul>	
セグメント 利益	石油・ガス 開発／販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 為替差損⇒差益 <math>+57</math>億円</li> <li>● 探鉱費減少 <math>+2</math>億円</li> </ul>	
	石油 精製／販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 化成品マージン改善 <math>+46</math>億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期首在庫影響 <math>\Delta 18</math>億円</li> <li>● 石油ピッチマージン悪化 <math>\Delta 42</math>億円</li> <li>● 石油製品マージン悪化 <math>\Delta 18</math>億円</li> <li>● シンガポール子会社の収益悪化 <math>\Delta 5</math>億円</li> </ul>

# 特別損失

(単位:百万円)

Norske AEDCに係る固定資産の減損等	①	20,129
(ノルウェー税制による税金還付見込額)	②	(9,445)
(実質損失額)	③ = ① - ②	(10,685)
NWO鉱区に係る固定資産の減損	④	4,862
特別損失合計	⑤ = ① + ④	24,992
(実質損失額合計)	⑥ = ③ + ④	(15,547)

# 連結貸借対照表の主な増減項目

(単位:億円)

	13年3月末	12年3月末	増減額	主な増減要因
流動資産	2,282	2,617	△334	棚卸資産 △257
固定資産	1,326	1,482	△156	有形固定資産 △200 貸付金(KGOC) △45 探鉱開発投資勘定 △41 繰延税金資産 +111
資産 合計	3,608	4,099	△490	
流動負債	2,369	2,496	△127	買掛金 △276 借入金 +130
固定負債	428	655	△226	借入金 △278 (内KGOC △45) 修繕引当金 +22
負債 合計	2,797	3,151	△354	
純資産合計	811	947	△136	利益剰余金 △134
負債純資産合計	3,608	4,099	△490	

KGOC (Kuwait Gulf Oil Company) : クウェイトの融資契約の相手先

# 連結キャッシュフローの状況

(単位:億円)

	13年3月期	12年3月期	13年3月期 要因説明	
営業活動によるCF	56	△8	減価償却費 棚卸資産減少 仕入債務減少	98 257 △276
投資活動によるCF	54	84	貸付金の回収	80
財務活動によるCF	△162	△66	長期借入金減少(net)	△133
換算差額	3	△3		
現金及び現金同等物の 期首残高	180	173		
現金及び現金同等物の 期末残高	132	180		



# 2014年3月期通期業績見通し

---

## 通期見通しの前提

原油価格	重軽格差 (アラビアンライトとアラビアンヘビーの価格差)	為替レート
ドバイ原油 \$ 105 / Bbl	\$ 4. 0 / Bbl	95円 / \$

## 事業計画

- 4年に1度の大規模定期修理工事(常圧蒸留装置:5/13~6/16)
- 大規模定期修理後の袖ヶ浦製油所のフル稼働維持
- 電力用C重油の需要に対応する装置の柔軟かつ機動的な運用
- 石油製品販売計画: 7,586千KL

# 14年3月期 通期原油・石油製品販売量

## 原油

(単位:千B/D)

	14年3月期(計画)	13年3月期	増減率(%)
カフジ原油(売買契約)	20.0	35.4	△43.5%
北海原油	0.0	0.1	—
原油計	20.0	35.5	△43.6%

## 石油製品

(単位:千KL)

ガソリン	1,841	1,951	△5.6%
ナフサ	222	287	△22.6%
中間留分	2,842	2,779	2.3%
C重油 (内電力向け)	762 (714)	1,396 (1,317)	△45.4% △45.8%
ベンゼン・キシレン	507	537	△5.6%
その他	1,051	1,175	△10.6%
小計	7,229	8,131	△11.1%
ジョイント・バーター	357	540	△33.9%
石油製品計	7,586	8,671	△12.5%
原油処理量	7,275	8,256	△11.9%

# 14年3月期 通期連結業績見通し

(単位:億円)

	14年3月期 見通し \$105.0/Bbl ¥95/\$	13年3月期 実績 \$107.1/Bbl ¥83/\$	増減額 △\$ 2.1/Bbl ¥12/\$	
売上高	7,100	7,800	△700	△9%
営業利益	44	15	28	184%
除在庫影響	50	23	27	117%
経常利益	12	32	△19	△63%
当期純利益	14	△130	144	—

## 営業利益の増減要因

### 増加要因

- 上流事業再構築による損失縮小 +18億円
- 期首在庫影響 +2億円
- 化成品マージン改善 +48億円
- シンガポール子会社の収益改善 +15億円

### 減少要因

- 石油製品マージン悪化 △46億円
- 石油ピッチマージン悪化 △13億円

## 原油価格・為替変動の経常利益への影響額

	基準	影響額	
原油価格 \$1/バレル下落に付き	105ドル	在庫影響	△4億円
		石油ピッチ	2億円
為替 ¥1/\$円高に付き	95円	在庫影響等	△6.5億円

(注) 在庫影響額算出においては石油製品価格は原油価格に連動するものとしている。  
 石油ピッチは通年の影響額。  
 為替変動による影響額にはドル建て資産の期末評価差損益を含む。

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。**

**お問合せ先**

**IR・広報部  
伊藤、岩本、山田**